

九 インドにおける綿布関税引上げ問題

341 昭和7年4月17日 在ボンベイ栗原(作次郎)領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

インド政府による関税調査会への綿糸布保護
関税続否問題の審議付託について

ボンベイ 4月17日後発
本省 4月18日前着

第九號

一、一九三〇年度設定ノ綿糸布保護關稅ヲ期限後更ニ繼續スヘキヤ否ヤヲ審査スヘキ關稅調查會ハ愈六月中旬ヨリ當地ニ於テ開始セラルル事トナリ政府ハ右調査事項トシテ(一)綿業保護ハ更ニ存置スヘキヤ(二)存置ストセハ如何ナル形式程度ノモノトスヘキヤ(三)若シ輸入税ノ形式ヲ必要トセハ現行ノ如ク英國品ト他國品トノ間ニ差別ヲ附スヘキヤ(四)保護ニ關シテハ手織工業ノ利益ヲ特ニ(脱?)容ルル事ヲ擧ケ之ニ對シ遅クモ九月下旬迄ニ報告ヲ完了スヘキヲ發表セリ

二、右ハ現行關稅設定當時財務長官カ之ヲ紡績ニ對スルTemporary Shelter ナリトシ二年後ニ實績ヲ審査スヘキヲ言明シタルニ徴シ當然期待セラレタル處ナルカ之ニ對シ當地紡績側ハ政府今回ノ措置ヲ不適當ナリトシ引續キ國民運動ノ打撃ヲ受ケタル事又爲替關係ニ依リ日本品ノ侵入多クナリタル事ヲ擧ケ印度紡績ハ建直シヲナス暇ナク保護關稅ハ尙絕對必要トスル旨盛ニ宣傳シ居リ目下ノ處當地實業方面ニ於テハ右紡績側ノ主張ヲ支持スルニ傾キ居ルモノノ如シ

三、本年度財政長官ノ豫算演說ニ依ルニ保護關稅設定後ノ綿布輸入ハ以前ニ比シ約半減シ之ニ對スル關稅收入又六千五百萬留比ヨリ三千七百五十萬留比ニ激減シ歳入不足ニ惱ム印度政府ニトリテハ之ヲ繼續スルハ財政上相當ノ犠牲ナルノミナラス孟買紡績カ過去二年間何等改善ニ努力セス徒ニ保護ノミヲ要求シ居ルハ關係者以外ノ同情ヲ失ヒ居ル事情モアルニ付政府モ慎重ナル態度ヲ執ルヘシ

ト思考スルモ「オタワ」會議ヲ中心トシ英本國ニ於テハ特惠ヲ骨子トスル印度トノ互惠協定ヲ希望シ居ル形跡アルニ乘シ紡績側ニ於テハ我國ヨリノ輸入ヲ遮斷シ得ハ高率ナル特惠ヲモ容認セントスル態度アルニ鑑ミ本件成行ハ「オタワ」會議ト關聯シ我カ對印貿易ニ重大關係アリト認メラル

英、「カルカッタ」ニ暗送セリ

342 昭和7年5月23日 在カルカタ酒勾(秀)總領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

インドにおける綿業保護關稅問題および英印
特惠關稅問題などへの我が方対策について

シムラ 5月23日後発
本省 5月24日前着

第四〇號

往電第二六號ニ關シ

一、關稅調查會ニテ審議中ノ現行綿業保護關稅ノ存否乃至改訂問題ハ來春ノ議會ニ上提セラルルモノト認メラルルモ之レト重要ナル關係ヲ有スル英印特惠關稅問題ハ「オ

タワ」會議ノ經過如何ニ依リテハ印度側ノ意見ヲ決定スル爲英國新關稅ノ關係上本年十一月迄ニ議會ノ議ニ附セラルル事アルヘク其ノ場合ニハ前記保護關稅モ同時ニ討議セラルルヤモ計リ難シ

二、印度紡績殊ニ孟買紡績關係者ハ保護關稅ノ存否ヲ以テ死活問題ナリトシ凡ユル運動ヲ試ミ居ル模様ナルカ最近政府カ「オタワ」會議ニ關シ各商工團體ノ意見ヲ求メタルニ印度側諸團體ハ全印商工會議所聯合會ヲ始メ何レモ對英特惠ニ反對ノ答申ヲナシ之レヲ新聞紙ニ公表シ又知名ノ士ニシテ同様反對ノ意見ヲ公表スルモノ續出セル一方英國系新聞中ニモ消費者ノ犠牲ニ於テ能率ナキ産業ヲ保護スルノ不可ナルヲ論スルモノアリ旁孟買紡績聯合會ノ如キハ保護關稅ト對英特惠トヲ關聯セシムルノ不得策ナルヲ認メタル爲カ前記「オタワ」會議ニ關スル政府ノ諮問ニ對シテハ留保的答申ヲナスト共ニ又復日本品ノ脅威ヲ強調シ不當廉賣取締法ノ如キヲ制定スル必要アル旨ヲ頻リニ宣傳シ一般ノ注意ヲ惹キ居レリ政府カ斯カル宣傳ニ動カサルヘシトハ認メ難キモ議會内二十個ノ議席ヲ有シ「キャスチング、ヴォート」ヲ握ル United Indian

Pattyノ政府系一有力議員カ川口代表ニ對シ同議員ハ財務長官ヨリ本秋ノ議會ニ主トシテ日本品ヲ目標トスル課稅法案ヲ提出スル事アルヘク其ノ際ハ該案ヲ支持アリ度キ旨懇談ヲ受ケタル趣内話セル事情モアリ又本春以來日本品ノ輸入契約激増セル事實モアルニ付右ハ相當注意ニ値スル事項ト認メラル

三、⁽²⁾スル情勢ニ鑑ミ在孟買領事トモ協議シ既ニ關稅調查會委員トノ聯絡ヲ始メ特惠反對論ノ カクフ 其他日本品ノ競争力アルハ企業ノ合理化及當業者ノ精勵ニ依ルコト等ニ付經濟協會ヲ利用シ着々對策ヲ講シツアル處前記委員中ニスラ日本棉業ニ關スル Pearse 氏著書ノ記事ニ付其眞偽ヲ疑フモノモアル實狀ナルニ付テハ本邦關係者ヲシテ各階級會社ノ代表的ノモノニ付職工ノ作業狀態福利醫療教育施設ニ關スル實況ヲ示セル寫眞帖約八十部並ニ職工ノ貯金送金狀態及健康保險現況ヲ説明セル資料ヲ成ルヘク英文ニテ調製送付セシメラレタク尙本件對策ハ玆數ヶ月間ニ主力ヲ盡ス要アル處經濟協會ノ活動ヲシテ一層實效アラシムル爲ニハ既定經費ノ外相當ノ資金ヲ要スヘク(大体三萬圓見當)右ニ付テハ川口代表ニ於テ本官等

二、日英兩國各種綿布別輸入單價ト卸賣相場ヲ對照シ且一九二六年以降各年度平均相場ニ依リ取引ノ趨勢ヲ示ス事
三、一九三三年度ニ保護關稅ヲ撤廢スルトセハ其ノ影響
四、印度ニ於ケル綿絲布生産ノ現狀ヲ詳記シ外國品トノ競争ニ耐エス若ハ採算上將來生産不利ナル種類ニ付内外製品ノ相場ヲ掲ケ其ノ對策ヲ求ム
五、手織綿布並ニ人絹混織布ニ及ホシタル現行保護關稅ノ效果如何

六、⁽²⁾保護關稅繼續ノ必要有リトセハ其形式、稅率、期間、品名並ニ特惠制度ニ關スル意見

七、人絹布ニ關スル稅率變更ノ必要有ラハ其理由

更ニ莫大小ニ關シ十二項ニ亘ル諮問ヲ附記シ主トシテ

一、印度製品ノ生産及取引事情

二、減資並ニ自家ヘノ供給

三、印度市場ニ於ケル日印兩國製品ノ相場對照ノ答申案ヲ求メ居レリ

英國、「シムラ」、甲谷陀、蘭貢ヘ郵送セリ

ト協議ノ上本部ニ稟請スヘキニ付右準備方本部當事者ニ可然御傳ヘノ上意嚮爲念回電アリタシ栗原領事川口代表トモ協議濟

英、孟買、蘭貢ヘ暗送セリ

343 昭和7年6月15日 在ボンベイ栗原領事より 齋藤外務大臣宛(電報)

關稅調查會における綿業保護問題の審議開始
と各方面への質問書送付について

ボンベイ 6月15日後発
本省 6月16日前着

第二一號

⁽¹⁾關稅調查會ハ豫定ノ如ク去ル六日ヨリ當地ニ於テ審議ヲ開始シ主トシテ關係方面ヨリノ陳情書ニ基キ綿絲布並ニ人絹布ニ關スル取引事情ヲ始メ金融、經營、生産狀態ニ付四十五項ニ亘ル「クエツシヨネーア」ヲ作成シ各方面ニ發送セルカ主要事項大體左ノ如シ

一、一九二九年發表 Hardy 報告ハ印度綿業ノ現狀ヨリ見テ何等變更ノ要アリヤ

344 昭和7年6月29日 在ボンベイ栗原領事より 齋藤外務大臣宛(電報)

円為替低落による日本綿布輸入激増への緊急
対策をインド政府に求めるボンベイ紡績連合
会などの請願について

ボンベイ 6月29日前発
本省 6月29日前着

第二七號

最近日印爲替ノ低落ニ伴ヒ我カ綿布輸入ノ激増ハ當地紡績側ヲ著ルシク刺戟シ居リタルカ今廿八日當地紡績聯合會並ニ印度人商業會議所ハ印度政府ニ對シ日印爲替カ昨年ニ比シ約五割方低落セルヲ指摘シ爲替ニ基ク事實上ノ日本品「ダンピング」ヲ阻止シ印度經濟界ノ混亂ヲ防ク爲緊急措置ヲトルノ要アル請願ヲ電報セリ印度政府カ右ニ對シ如何ナル態度ニ出ツヘキヤ判明セサルモ保護問題ト離レ本件ノ成行相當注視スルヲ要スト認メラル

「シムラ」「カルカッタ」ヘ轉電セリ

345 昭和7年7月1日 在ボンベイ栗原領事より
齋藤外務大臣宛(電報)

ボンベイ紡績連合会などがインド政府に日本
綿布輸入激増への緊急対策を請願した真意に
ついて

ボンベイ 7月1日後発
本省 7月2日前着

第三〇號

往電第二七號ニ關シ

其後孟買紡績聯合會ハ當地各商業團體ニ次テ「アーメダバ
ッド」聯合會ヲモ憑憑シ同趣旨ノ電請ヲ政府ニ對シ發セシ
メタル外「タイムス」、「クロニクル」等當地主ナル新聞ヲ
シテ専ラ宣傳ニ努メシメ居レリ當地紡績側カ突如本問題ヲ
拉シ來リタル眞意ハ關稅調查會ニ對シ一種ノ牽制トモ見ラ
レサルニ非サルモ目下孟買紡績ハ約十六萬俵ノ「ストツ
ク」ヲ藏シ事實日本品ノ安値賣ノ爲徹底的ニ脅威セラレ居
ル實情ニアルヲ以テ政府モ或ハ之ニ動カサルル懸念無キニ
非ス旁此際我營業者側ニ於テ安値賣急キヲ慎ムヘク何等申
合等出來得ルトスレハ緩勢ヲ緩和スルニ效果アルヘシト認

シムラ 7月5日後発
本省 7月6日前着

第四六號

往電第四五號ニ關シ

五日商務長官ヲ往訪本件ニ言及シ大要日本ハ輸入超過國ナ
ルノミナラス多額ノ外債ヲ有スルニ顧ミ爲替低落防止ノ爲
有ユル努力ヲ爲シ居リ現ニ公電ニ依レハ政府ハ一日ヨリ資
本逃避防止法ヲ實施セルカ之カ爲カ其ノ後圓爲替ハ多少見
直シタリ又「ロイター」ニ依レハ同日ヨリ日本銀行限外發
行高八十億圓ニ擴大セラレタルカ之カ爲日本内物價ノ漸騰
ヲ見ル可ク今後ハ過去數ヶ月ノ如キ多量ノ日本品輸入商談
成立セサルヤニ認メラルトノ趣旨ヲ詳述セルニ長官ハ右法
令ハ本件考慮ニ付テハ重要事實ヲナスモノト認ムルヲ以テ
其英譯文ノ回附ヲ受ケ得ハ(貴電合第一二九四號及第一四
六七號ノ英譯文ヲ送附ノ筈)之ヲ本官ノ述ヘタル趣旨ト共
ニ總督ヘモ傳フヘシ實ハ本件ニ付テハ毎日數通ノ電請ニ接
シ居ル次第ナルヲ以テ主ナル關係者ニ對シ事實ノ詳細ヲ説
明スル爲當地ニ來ル可キヲ促シ置キタル處
本官ノ説ノ如ク條約關係モアリ又關係者ノ主張タル圓爲替

メラル

尙本件ニ付テハ紡績側誤謬ヲ正ス爲當地我銀行側意見ヲモ
斟酌ノ上我政府ハ目下爲替維持ノ爲有ユル努力ヲ爲シ居ル
コト並ニ日印間貿易ニ關シテハ日本ハ常ニ輸入超過ニシテ
爲替ノ低落ハ日本ニ有利ナラサル旨ヲ各紙ニ「インタービ
ュー」トシテ出シ置キタリ
「シムラ」甲谷陀ヘ轉電セリ

~~~~~

346 昭和7年7月5日 在カルカタ酒匂總領事より  
齋藤外務大臣宛(電報)

円為替下落防止のための日本側対策につき商  
務長官へ説明について

付記一 六月七日發齋藤外務大臣より在外公館長宛電  
報合第一二九四号

資本逃避防止法の趣旨と制定理由について

二 七月一日發齋藤外務大臣より在外公館長宛電  
報合第一四六七号

資本逃避防止法施行に關する大藏省令の要点  
について

ノ低落ヲ以テ一種ノ補助金ト看做シ關稅法ニ基キ日本品ニ  
對シ附加稅ヲ課シ得ルヤ如何ニ付テモ異議ナキニ非サルヲ  
以テ目下夫々關係當局ニ於テ研究中ナルト共ニ慎重ニ審議  
ノ上ニ非サレハ政府ノ行動ヲ決セサル可シ從テ本官ヨリ此  
ノ上何等申出アラハ喜ンテ考慮スヘシト答ヘタリ政府當局  
ハ憲法改正問題ニ關シ反英熱ノ高マリ來レル此ノ際有力商  
業團體ノ猛運動ニ會ヒタル關係上其取扱ニ苦慮シ居ルモノ  
ノ如ク看取セラルル處本邦當局ニ於テ爲替安定策ニ付テハ  
何等聲明ヲ發セラルルカ少クトモ在本邦英國大使又ハ總領  
事ニ對シ與ヘラルル事ニ御取計ヲ得ハ本件ニ關スル當國政  
府ノ緊急措置ノ阻止乃至其ノ實現ノ遲延ニ資シ得ルモノト  
認ム尙本件ニ付テ何等心得置クヘキ儀アラハ至急回電アリ  
度シ

甲谷陀孟買ヘ轉電セリ

(付記一)

合第一二九四號 本省 6月7日後4時30分發  
政府ハ今期臨時議會ニ資本逃避防止ニ關スル左記趣旨ノ法

(欄外記入二)

律案ヲ提出セリ

一、政府ハ資本ノ内外移動ヲ取締ルタメ必要ト認ムルトキハ命令ニヨリ外国通貨及外国為替ノ賣買、外国ニ対スル送金、外国通貨ヲ以テスル預金取引及貸借、外國通貨表示ノ証券其ノ他ノ債權ノ賣買及輸入並ニ外国居住者ニ対シ信用ヲ與フル行爲ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得(第一條)

又右ノ禁止又ハ制限ニ關係アル事項ニ付キ報告ヲ徴シ又ハ帳簿其ノ他ノ検査ヲ行フコトヲ得(第二條)

二、政府ハ外国通貨外國為替又ハ外国通貨表示ノ証券其他ノ債權ヲ有スル者ニ対シ外貨評價委員會ノ定ムル價額ヲ以テ之ヲ日本銀行其他政府ノ指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ズルコトヲ得(第三條)

三、本法ノ違反行爲ヲ爲シタル者ニ対シテハ罰則ノ定アリ(第四條第五條) 罰則ハ本法施行地以外ニ於テ爲サレタル行爲ニモ適用セラル(第六條)

右提案ノ理由ハ近時本邦資本ノ海外流出ノ傾向アリ之ヲ放置スルニ於テハ我國經濟ノ基礎ヲ危フクスルノ虞アルヲ以テ、之ガ取締ニ關スル法律ヲ制定セントスルニ在ルガ本法

期日前三箇月内又ハ支拂期日以後ニ輸入スルモノヲ除ク右許可ヲ受ケ郵便ニ依リ輸入セントスル場合ハ小包郵便ニ依ルコトヲ要ス

四、許可ヲ受ケシテ外國通貨ヲ以テ表示スル社債ヲ發行スルヲ得ス

五、外國為替業務ヲ営ム者ハ船積書類等外國貿易關係タルコトヲ証スヘキ書類ヲ伴ハサル外國為替ノ賣買及豫約、外國ヘノ送金、外國ヨリノ取立金及信用狀ノ發行ノ明細書ヲ翌月中大藏大臣ニ提出スヘシ

六、本令施行ノ際本邦内又ハ外國ニ於テ外國通貨、外國為替、外國通貨ヲ以テスル預ケ金、貸付金又ハ外國証券(執レモ一千元以上)ヲ有スル者ハ一箇月以内ニ(在外支店ノ分ニ付テハ報告到着後遲滞ナク)其ノ金額、所有ノ理由等ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

如斯本件ハ外國貿易ニハ何等障礙ナキモノナルニ付右誤解ナキ様致度尚ホ詳細ハ官報ニ依リ承知アリタシ

(欄外記入一)

参考

(欄外記入一)

ハ一般的ノ爲替管理ニアラズ故ニ外國貿易其他正常ナル取引ニハ支障ナカラシムル方針ナルモ報告義務等ハ比較的廣汎ニ亘ルベク尙資本ノ輸入ニ対シテモ監督ヲ行フ方針ナリ此等ノ趣旨ハ大藏省令ヲ以テ規定セラル、答

(付記二)

本省 7月1日後9時 分発

合第一四六七號

往電合第一二九四号ニ關シ資本逃避防止法案ハ臨時議會ヲ通過シ右施行ニ關スル大藏省令二件ト共ニ七月一日公布即日實施セラル省令ノ要点左ノ如シ

一、資本ヲ外國ニ移ス目的ヲ以テ外國ニ送金シ又ハ外國通貨若ハ外國為替ヲ買入ルルコトヲ得ス但シ許可ヲ受ケタル場合並ニ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ於ケル投資ノ為該地域ニ送金スル場合ヲ除ク

二、許可ヲ受ケシテ外貨証券(外國通貨ヲ以テ表示シタル公債、社債及株式ヲ謂フ)ヲ買入ルルコトヲ得ス

三、許可ヲ受ケシテ外貨証券ヲ輸入スルコトヲ得ス但シ本邦内ニ支拂地ヲ有スル外貨証券ノ支拂ヲ受クル為支拂

347

昭和7年7月10日 在カルカタ酒勾總領事より内田外務大臣宛(電報)

大藏省ノ意見ニ依レバ關東州及附屬地ヲ指ス

(欄外記入二)

参考

正金銀行員ノ談ニヨレバ貿易關係ノ外國為替取引等ニシテ貿易關係タルコトヲ証スベキ書類ノ伴ハザルモノ相當アリ、此處相當面倒ナルベシト

近く行なわれる商務長官とインド紡績連合会代表者などの会見において我が方主張を詳述したステートメント提出について

別電 七月十日発在カルカタ酒勾總領事より内田外務大臣宛第五〇号

日本における円為替下落対策と円為替下落が日本の貿易に及ぼす影響等に関する商務長官への説明趣旨

シムラ 7月10日後発  
本省 7月11日前着

第四九號

往電第四五號ニ關シ

九日或宴會ニテ邂逅セル長官ハ孟買及「アーメダバット」紡績聯合會孟買及上印度商業會議所並ニ甲谷陀莫大小協會ヘ照電ノ結果十一日之等團體代表者ト會見スル筈ナリト語リタルカ右ニ付莫大小協會代理者ヲシテ日本品ニ對スル重課ハ延イテ印度原棉ノ日本向輸出ヲ減少セシムヘキ點ヲ明カニセル日本側ノ主張ヲ詳述セル「ステートメント」ヲ提出セシムル筈ナリ又本官ハ長官ニ宛テ資本逃避防止法ノ英譯文ニ添ヘ大要別電第五〇號ノ趣旨ヲ申送り置ケリ

孟買ヘ轉電セリ

(別電)

シムラ 7月10日後発

本省 7月11日前着

第五〇號

一、金圓低落ノ主ナル原因ハ一昨年來ノ傾向タリシ資本ノ海外逃避カ通貨ノ膨脹ヲ見ルヘシトノ噂ト日本外債ノ値下リニ刺戟セラレ一層顯著ト爲レルニ存スルカ如シ從テ

本件突發ト同時ニ當方ニ於テハ關稅調查會委員並紡績側要人ニ對シ當方ノ立場ヲ説明スルト共ニ新聞ニ材料ヲ與ヘ圓爲替ノ低落カ一時的ナルコト日本カ四十年來印度ノ大顧客タルコト等ヲ揭ケシメ又當地印度人商業會議所會頭カ日本蟲眞ナルヲ利用シ過日「ロータリークラブ」ニ於テ此ノ際日本ニ對シ事實上差別待遇ヲ爲スハ對英特惠ノ認容ニ外ナラサル旨ヲ演說セシムル等極力空氣ノ緩和ニ努メ居ルモ一方圓爲替ハ資本逃避防止法施行後モ依然回復セス日印爲替昨今一〇四ノ邊ヲ往來シ居ルニ加ヘ我當業者ノ印(度)ヘノ賣込競争激シク日本品安値賣約相當多量ニ上リ綿絲布既契約品ハ定期船ノ外山形「マドラス」ノ二臨時船ニ滿載入港スルアリ之等ノ事實ハ我製品ノ印度市場壓迫ノ感ヲ深カラシメ印度紡績側ヲ刺戟シ居ル外本邦ニ於ケル銑鐵關稅引上ハ紡績側ニ依リ印度ニ對スル差別待遇ナリトノ宣傳ニ口實ヲ與ヘタル等目下諸般ノ狀況ハ我方ニ不利ニシテ印度政府ノ決心ヲ固メシムル傾向ニアルハ遺憾ナリ

十一日ノ會議後政府カ如何ナル態度ニ出ツヘキヤ判明セサルモ九日不取敢棉花協會ヲシテ對日關稅増徴ハ原棉ノ買付ニ影響ヲ及ホシ一般耕作者ノミナラス「コットン、トレー

當局ハ今回ノ立法ヲ爲セル次第ニシテ該法令ノ實施ハ圓價ノ低落ヲ防キ其回復ヲ促進スヘシ

二、保證準備發行限度擴大セラレタルカ通貨ノ膨脹並ニ圓價低落ハ國內物價ノ漸騰ト爲リ輸出ニ付テハ圓價低落ノ影響ヲ相殺スヘシ右傾向ハ輸入原料ヲ以テスル製品例ヘハ綿製品ニ付テ特ニ顯著トスヘク既ニ此等ノ市價ハ騰貴セリ即圓低落ハ日本ニ何等ノ利益無ク特ニ輸入原料ニ依ル製品ノ海外輸出ヲ一層困難ナラシメツツアリ

孟買ヘ轉電セリ

348 昭和7年7月11日

在ボンベイ栗原領事より  
内田外務大臣宛(電報)

円為替下落による日本綿布輸入急増問題に關シ我が方立場を關稅調查會委員などインド側關係者に説明について

ボンベイ 7月11日後発

本省 7月12日前着

第三七號

往電第三六號ニ關シ

ド」全體ヲ脅スヘシトノ趣旨ヲ商務長官宛電報セシメ置キタルカ更ニ當地棉花取引所會頭ヲシテ同様電報セシムル様折衝中ナリ

「シムラ」「カルカッタ」ヘ轉電シ英、蘭貢ヘ暗送セリ

349 昭和7年7月12日

在カルカタ酒匂總領事より  
内田外務大臣宛(電報)

円為替下落による日本綿布輸入急増問題について商務長官とインド紡績連合會代表者などとの會議概要について

シムラ 7月12日前発

本省 7月12日前着

第五二號

貴電第四九號ニ關シ

莫大小組合代表者ヨリ十一日會議ノ模様ヲ聽取セルカ「モデイ」主トナリ圓低落ハ日本政府カ故意ニ取レル方策ナルコト日本綿業者ハ日本ノ金輸出禁止前安價ナル原棉ヲ多量ニ仕入居ルノミナラス多額ノ海外送金ヲ爲シ其後ニ於ケル輸入代金支拂ニ當テ居ル事日本製品ハ印度原棉ヨリ安價ニ

賣レ居ル事ヲ説キ日本品ノ洪水ハ少ク共今後數ヶ月間其勢ヲ増スヘク既ニ孟買ニ於ケル約六箇ノ工場ハ閉鎖ヲ餘儀無クセラレタリトテ國內産業ノ保護ノ爲政府カ即時ニ且有効ナル緊急措置ヲ採ルヘキヲ要望スル旨力説シ商務長官カ若シ圓「ルピー」爲替大体「ノーマル」トナラハ如何ト問ヘルニ對シ同人等ハ下級品ニ付テハ或程度迄日本品ト競争シ得ヘキモ高級及中級品ニ付テハ現行關稅率ヲ以テスルモ到底競争ニ堪ヘスト答ヘ長官ノ求メニ依リ孟買歸着後以上諸點ニ關スル詳細ノ「ステートメント」ヲ提出スル事トナレル趣ナリ本會談中具體的課稅率又ハ其期限ニ關スル提案ヲ爲セル者無カリシモ日本ノミナラス將來爲替ノ下落スル國有ルヘキヲ豫想セル措置ノ望マシキヲ説ケル者アリ又日本カ印度銑鐵ニ高率關稅ヲ課セルニ鑑ミ日本線製品ニ對シテモ重課スヘキモノナリト説ケル者有リシ趣ナリ

次ニ莫大小關稅ニ付安價ナル日本品カ既ニ十一箇ノ工場ヲ閉鎖セシメタリト訴ヘタル者アリシニ對シ前顯甲谷陀ヨリノ代表者ハ印度年鑑ヲ示シ工場數三十六、使用人員二千五百ニ過キサルヲ指摘シ内十一工場カ閉鎖セラレタリトセハソレタケ人員モ減少セル筈ニテ之等ヲ保護スル爲日本品ニ

説ハ全然誤謬ナリトノ趣吉ハ已孟買出張所ニ電報濟ノ由ナル処往電合第一二九四号及合第一四六七号資本逃避防止法實施ノ結果今後円價下落ヲ見越シ原綿買入資金ヲ豫メ海外ニ送金スルコトハ投機行為ト看做シ政府ニ於テ之ヲ許可セサル方針ナルニ付右ノ莫可然御利用アリタシ

孟買、カルカタニ轉電アリタシ

(欄外記入)

青木国庫課長ト打合済

351 昭和7年7月26日

在カルカタ酒勾總領事より  
内田外務大臣宛(電報)

円為替下落による日本綿布輸入急増問題に關  
し我が方事情を説明した当業者覚書をインド  
政府商務・財務両長官に手交について

別電 七月二十七日発在カルカタ酒勾總領事より内

田外務大臣宛第六〇号

右覚書

重課スルノ不當ナルヲ説キ又嘗テ我方ニテ用意セシメ置キタル「ステートメント」(大要往電第五一號前段以下ノ趣旨ノ外日本品重課ハ印度原棉ノ輸出減退ヲ招來スヘキ點等ヲ數字ヲ以テ立證セルモノ)ヲ朗讀セルニ列席者何レモ傾聽セル趣ナリ前記日本政府ノ方策云々ノ點ニ付テハ往電第五〇號ニハ省略セルモ本官ヨリ長官宛書面中充分ニ反覆シ置ケリ

孟買へ轉電セリ

350

昭和7年7月14日

内田外務大臣より  
在カルカタ酒勾總領事宛(電報)

インド紡績業者の主張する日本は金輸出禁止  
前に大量の米国綿花を買付けたとの説に対し  
反駁方訓令

本省 7月14日後4時20分発

第一八號

(欄外記入)  
貴電第五二号ニ関シ

「モデイ」等ノ主張ニ對シテハ本邦紡績聯合會等ニ於テモ至急対策講究中ニテ金禁止以前多額ノ米棉ヲ買付タリトノ

第五九號

往電第五七號ニ關シ

シムラ 7月26日後発  
本省 7月27日前着

廿四日甲谷陀ヨリ浦部三井、牧野日綿、孟買ヨリ三矢東綿、竹内三井、駒田商船及川口來着協議ノ上大要別電第六〇號ノ趣旨ヨリ成ル相當長文ノ覺書ヲ準備シタルカ同代表等ハ廿六日財務長官々邸ニ於テ本官紹介ノ下ニ商務財務兩長官及兩次官ト會見浦部右覺書ヲ朗讀セルニ兩長官ハ交々本件ニ對シテハ各方面ヨリ陳情有リタルカ今日本側ヨリ興味アル説明ヲ聽ク機會ヲ得タル事ヲ喜フ例ヘハ棉花取引ニ關スル商習慣等ノ如キハ始メテ知リタル事實ナリ政府ハ凡テノ事情ヲ慎重ニ講究スヘク決シテ忽卒ニ措置ヲ決スル事ハ無カルヘシ從テ先ツ關稅調查會ニ於テ審議セシムル事トセルニ付若シ此ノ上何等主張ヲ希望セラルル事アラハ同調査會ニ申出ラルル事適當ナルヘシトノ趣旨ヲ述ヘタリ

本件ノ順序等ニ關シテハ豫メ兩長官ト打合せ置キタル關係モ有リ極メテ圓滿ニ行ハレ雙方ニ好印象ヲ與ヘタル模様ナリ會見内容ノ大要ハ兩長官ノ承諾ヲ得テ當地A、P代表者

ヲシテ本邦へモ打電セシメタリ  
孟買、甲谷陀へ轉電シ、英ニ暗送セリ

## (別電)

シムラ 7月27日前発  
本省 7月27日後着

## 第六〇號

一、吾人ハ共存共榮<sup>①</sup>ノ趣旨ノ下ニ貿易ニ從事シ居レルカ一  
九三〇——三一年度ニ於ケル日本ノ對印輸出カ一億四千  
五百萬留比ナルニ印度ノ對日輸出ハ二億三千九百萬ナル  
事實ニ鑑ミ輸入ニ付公平ナル割前ヲ受ケンコトヲ望ム右  
ニ付何等特別ノ恩惠ヲ希求スルニ非ス依怙ナキ市場ヲ要  
望スルノミ

二、日本品ノ多量商談成立ハ市場ニモ亦爲替上ニモ一時的  
異常ナル事態アリタルニ依リ之ヲ立證スルニハ先ツ日本  
ノ金解禁當時ヨリノ政治經濟財政事情ヲ略叙セサルヲ得  
ストテ最近ニ至ル迄ノ主ナル事實ニ付説明ヲ爲シタル後  
綿製品取引ニ付テハ(一)本年初頭印度商人間ニ綿製品ノ飢  
饉ヲ招來スヘシトノ説高カリシコト(二)當時米棉値上リア

場關係ト相俟ツテ日本ヨリノ輸出ヲ刺戟セルナランモ一  
時的ノ現象ナルヲ信ス

以上ニ依リ市場及爲替ノ情勢ニ特殊ノ事情アリタルコト  
並ニ政府力計畫のニ爲替引下ケ又ハ輸出補助ヲナシタル  
モノニアラサルコト判然スヘシ輸入増加ハ日本品ニ限ラ  
ス英國品モ昨年度ニ比シ今年一月ヨリ四月迄ニ三四%ノ  
増加ヲ示シ居レリ

五、一般の意味ノ「ダンピング」非難アルモ日本紡績ハ高  
率操短ヲ繼續シ需給調節ヲ講シ居レリ右ニ付一九二七年  
關稅調查會報告及一九二九年「ハーデー」報告ヲ引用シ  
日本紡績ハ内地ヨリ外國ニ安賣リスルモノニ非サルコト  
ヲ指摘ス或種ノ綿布ニ對シテハ禁止のナル現行高率關稅  
ノ結果ハ印度向ケ日本品ノ内容ヲ著シク變化セシメタリ  
而シテ輸入カ繼續シ居ルハ一般消費ニ投合スル種類ヲ  
「アトラクティブ」ナル値段ニテ販賣スル結果ニ過キス

六、孟買紡績カ惡宣傳セル日本紡績ノ米棉買付ハ金輸禁止  
前二百萬俵ニアラス八月一日以降十二月廿二日迄ニ六十  
五萬俵ナルコトヲ指摘シ又米棉買付資金ヲ金輸禁止前多  
額ニ送金セリトノ攻撃アルモ日本ノ商慣習ハ紡績ノ原棉

リシコト(三)當時印棉ノ出廻リ少ク從テ米棉ヲ使用スル日  
本品カ有利ノ地位ニ置カレタルコト(四)客秋以來政治的不  
安ニ依リ外國品ノ輸入制限セラレ本年初頭ニハ在荷極端  
ニ減少ノ爲買氣強カリシコト(五)支那市場梗塞ノ爲日本品  
ノ對印輸出ヲ容易ナラシメ自然多量ノ商談成立セルカ當  
時ノ爲替ハ百三十七乃至百二十八ナリキ其ノ後多少ノ商  
談成立セシモ百五十二下落以來商談甚タシク減少セリ<sup>②</sup>  
三、爲替カ百二十二下落セルハ主トシテ極東事變ニ依ル而  
シテ日本外債ノ値下ハ資本ノ逃避ヲ促シタルカ右傾向ハ  
日本當局カ右防止方策ヲ講シ又「インフレイション」政  
策ヲ採ルヘシトノ噂ニ依リ增長セラレタリ日本政府ハ六  
月中旬資本逃避防止法案ヲ通過セルカ右實施前「インフ  
レイション」政策見込及法規ノ適用ヲ免レントスル圓賣  
及商品見込輸入等ニ依リ爲替ハ百臺ニ下落セルカ同法ノ  
實施ニ依リ圓價下落ヲ喰止メ且ツ回復ヲ期待サル尤モ  
「インフレイション」政策及低率爲替ハ必然的ニ國內物  
價ヲ漸騰セシムヘシ

四、<sup>②</sup>印度向ケ輸出商談ノ大部分ハ二月迄ニ成立シ居リ爲替  
ノ影響ナシ其後特異ノ事情ニ依リ下落セル爲替ハ上記市

買付カ圓建ニテ爲替ハ紡績ノ關係セサルコトナリ

七、圓價カ六ヶ月前ニ比シ半額トナレリト云フコトノ不合  
理ナルハ勿論百三十五六ヲ「ノーマル、レート」ト見做  
スコトモ亦妥當ナラス蓋シ圓留比ノ爲替ハ「パリテイ」  
以外ノ諸種カ因子ニ依リ左右セラルルヲ以テナリ

八、昨年印棉相場ハ十年來ノ凶作ノ爲割高トナリ印度紡績  
ニ不利ヲ來セルモ右ノ不利ハ印棉カ平作トナラハ消滅ス  
ヘク最近ニ於ケル印度紡績ノ不利モ一時的ナルヘク現存  
スル日本紡績ハ何レモ極力企業ノ合理化生産費ノ切下ケ  
及無駄ノ省略ニ努力シ來レルモノニシテ製品ヲ「モデレ  
ート、プライス」ニテ販賣シ得ル理由ノ一ハ此處ニ存ス  
十、<sup>⑨</sup>以上ノ説明中爲替及内地物價ニ關係アル部分ハ一般輸  
入品人絹製品及莫大小等ニモ等シク適用セラルヘシ

352

昭和7年7月26日

在カルカタ酒匂總領事より  
内田外務大臣宛(電報)

円為替下落に起因する非英國製綿製品への関  
税増徴実施問題を関税調査会へ諮問したとの  
インド政府コミニケ発表について

付記一 七月二十七日発在カルカタ酒勾総領事より内

田外務大臣宛電報第六二号

右諮問に関するコミニケ

二 七月二十七日発在カルカタ酒勾総領事より内

田外務大臣宛電報第六三号

右諮問事項に関するコミニケ

シムラ 7月26日後発

本省 7月27日前着

第六一號

政府ハ廿五日附ヲ以テ拙電第六二號及第六三號「コミニケ」ヲ發表セリ

在英大使、孟買、甲谷陀へ郵送セリ

(付記一)

シムラ 7月27日前発

本省 7月27日前着

第六二號

一、政府ハ孟買及「アーメダバード」紡績聯合會ヨリ最近ニ於ケル圓貨低落ニ鑑ミ日本ヨリ輸入セラルル綿製品ニ

績聯合會ヨリ前記條項ニ依ル權限ノ即時適用方要請アリタリ依テ政府ハ關稅調查會ニ對シ印度關稅法第三節ノ(五)ニ依ル増減ヲ必要トセルヤ否ヤヲ諮問セリ

(付記二)

シムラ 7月27日前発

本省 7月27日前着

第六三號

一、印度政府ハ印度紡績業者ヨリ一八九四年印度關稅法第三節ノ(五)ニ依ル權限ニ基キ輸入關稅法第七部第百五十八項ノ英國製ニ非サル綿製品ノ關稅ヲ増加セラレ度キ旨ノ陳情ヲ受領セルカ右理由ハ印度ニ於テ製造セラルル同様製品ニ對シテハ關稅ニ依リ保護ヲ與ヘラレ居ル處目下輸入セラレツツアル綿製品ノ價格ハ右保護ヲ無効ナラシムルカ如キ虞有リト云フニ在リ

二、印度政府ハ關稅調查會ヲシテ左記條項ニ付即時調査ヲ爲シ取急キ答申セシム可キコトニ決定セリ

印度内ニ製造セラルル綿製品ハ一八九四年印度關稅法第二表第七部及一九三〇年綿業保護法ニ基キ賦課セラル輸入税

對シ即時ニ關稅附加稅ヲ増賦ス可キコトヲ要請セル陳情ニ接シタルカ右要請ハ孟買「カルカッタ」上部印度其他各地商業會議所及商業團體ニ依リ支持セラレタリ右陳情ノ多クハ綿製品ニ對スルモノナル處右以外原産國ニ於ケル通貨ノ低落ニ依リ影響セラレタル諸品種ニ對シテモ増賦方ヲ要請セル者有リ

二、右増賦要請輸入品目中現行法令ニ依リ行政手段ニ依リ増賦シ得ラルル品種ハ英國製ニ非サル綿製品ノミニシテ右權限ハ一八九四年印度關稅法第三節ノ(五)ニ依リ附與セラル

右規定トハ「非英國製ニシテ英國製ノ同様品ヨリ高率ナル關稅ヲ課セラル可キ品種カ輸入セラルル場合右ニ對スル關稅カ印度内ニ製造セラルル同様ノ品種ノ保護ニ不充分ナルカ又ハ加重トナル場合印度總督ハ必要ナル調査ノ後官報告示ニ依リ或一國又ハ諸國ニ於テ製造シ輸入セラルル一定品種又ハ一般品目ニ對シ右稅率ヲ増加シ或ハ減少セシムルコトヲ得」トアルヲ指ス

英國品ナルカ否ヤニ依リ差別率ヲ課セラルル品種ハ鐵及鋼ヲ除キテハ綿製品ノミナルカ孟買及「アーメダバード」紡

ニ依リ保護ヲ與ヘラレ居ル處英國製ニ非サル綿製品カ目下右保護ヲ無効ナラシムル虞有ルカ如キ額ヲ以テ輸入セラレツツアルヤ否ヤヲ報告ス可シ然リトセハ

A増稅ノ場合英國品ニ非サル綿布ノ稅率ハ如何ナル程度迄増加ス可キヤ又英國品ニ非サル總テノ綿布ニ對シ増加ス可キヤ綿布ノ内單ニ「プレーン」「グレイ」ノミトス可キヤ又ハ他ノ品種ノミニ限ル可キヤ

B稅率ハ一般的ニ増加ス可キヤ又ハ或一國又ハ特定ノ諸國ニ於テ製造シ輸入セラルル特定品種ノミニ課ス可キヤ  
C保護ノ増加ヲ必要ト認ムル時ハ其期間ヲ幾許トス可キヤ

353

昭和7年7月29日

内田外務大臣より  
在英国沢田臨時代理大使宛(電報)

インドにおける非英國製綿製品への關稅増徴問題に關し我が方主張英國政府に申入れ方訓令

別電

七月二十九日發内田外務大臣より在英国沢田臨時代理大使宛第八七号

右申入れ

本省 7月29日後3時30分發

第八四號（至急）

本邦為替相場ノ下落ニ伴ヒ印度向本邦綿製品ノ輸入激增セリトノ理由ノ下ニ最近右ニ對スル関稅増徴方ニ付印度紡績業者（各地商業會議所其他商業団体モ支持ス）ノ運動開始セラレ去ル廿五日印度政府ハ之ヲ関稅調査會ニ諮問スルニ至レルカ右関稅増徴阻止方ニ付テハ在印各領事官ニ於テ極力盡力中ナルモ今後ノ形勢樂觀ヲ許サザルモノアリ或ハ九月印度議會ノ開催ヲ俟タスシテ近ク行政命令ニ依リ本邦品ニ對スル附加関稅徵收ノコトトナルヤモ計ラレスト思考セラル（此場合ハ英本國ノミナラス其他ノ諸外國品ニモ右附加稅ヲ免除スルコトトナルヘシ）

就テハ貴官ハ委細往電第八五號第八六号及第八八号（「シムラ」來電第六一号乃至第六三号）ニ依リ御閱悉ノ上至急文書ヲ以テ別電第八七号ノ趣旨ヲ英國政府ニ申入レラレタル上適宜説明ヲ加ヘオカレ度尙事情切迫ノ次第モアリ在印各領事ヨリハ本電貴官宛訓令ノ次第ヲ適宜印度當局ニ通シオク様取計ハシムヘキニ付右ニ御承知置アリ度

追而特惠関稅問題ニ関スル客年七月九日附英國政府回答ニ對シテハ大体從來ノ我方主張ヲ以テ詳細反覆弁駁スルノ外

九 インドにおける綿布関稅引上げ問題

府ノ注意ヲ喚起スルノ不得已ニ立到レルヲ遺憾トス更ニ印度政府ノ関稅調査會ヘノ諮問事項中「稅率ハ一般的ニ増加スヘキヤ又ハ或ル一国又ハ特定ノ諸國ニ於テ製造シ輸入セラルル特定品種ノミニ課スヘキヤ」ノ一項アリ右ニ所謂或ル一国又ハ特定ノ諸國トハ前記印度紡績業者陳情ノ動機ニ鑑ミ日本國ヲ目標トスルモノタルコト推察ニ難カラサルトコロ若シ関稅調査會ニ於テ日本品ノミニ對シ関稅ヲ増徴スヘキ旨ノ意見ヲ上申シ印度政府ニ於テ之ヲ實施スルコトトナラハ日本品ハ印度ニ於テ英國ヲ除キタル諸外國品ヨリモ一層不利益ナル差別的待遇ヲ受クルコトナリ此ノ点ニ於テ英國政府ハ特惠関稅問題以外更ニ別ニ日印通商條約違反ノ過失ヲ重ヌルコトトナルヘシ右ハ日本以外ノ若干國產品ニ對シ日本品全様ノ差別待遇ヲ為ス場合及ビ一九二七年ノ印度綿糸関稅ノ如ク特ニ原產國ヲ指定セサルモ主トシテ日本國品ヲ目標トシテ関稅増徴ヲ為ス場合ニ付テモ亦全様ナリ帝國政府ハ何故ニ印度政府カ本邦品ニ對シ此種日印通商條約違反タル差別待遇ヲ豫見セルカ如キ諮問ヲ関稅調査會ニ發シタルヤ了解ニ苦シムモノニシテ右ニ付テハ此際英國政府ノ最モ深甚ナル注意ヲ喚起セントス

ナカルヘク右ニ関シテハ追テ電報スヘシ

「シムラ」ニ轉電シ孟買「カルカタ」ニ轉電セシメタリ

（別電）

本省 7月29日後8時0分發

第八七號（至急）

印度政府ハ其公表セル七月二十五日附「コムミニケ」ニ依レバ最近印度紡績業者ヨリノ陳情ニ基キ印度輸入綿製品ニ對シ一八九四年印度関稅法第三節ノ（五）ニ依リ英國製ニ非サル綿製品ニ對シ関稅ヲ増徴スルコトニ関シ関稅調査會ニ即時調査ヲ命シタル趣ナリ

然ルニ前記関稅法第三節ノ（五）ニ依リ関稅ヲ増徴スルコトトナラハ右ハ第一段ニ於テ英國品ト諸外國品トノ間ニ存スル現行差別的関稅ノ開キヲ單ナル行政命令ニ依リ更ニ一層増大スルコトトナルヘク右ハ帝國政府カ日印通商條約違反トシテ累次抗議シ來レル本問題交渉ノ経緯ヲ無視スルコトトナルヘシ帝國政府ハ本問題ニ関スル英國政府從來ノ回答ヲ以テ不満足ノモノト認メ其ノ累次英國政府ニ表示シ來レル日印通商條約上ノ解釈ヲ堅持スルモノナルコトニ付英國政

「シムラ」ニ轉電シ孟買「カルカタ」ニ轉電セシメタリ

354 昭和7年8月1日 在カルカタ酒匂總領事より  
内田外務大臣宛（電報）

非英國製綿製品への関稅増徴問題に關し英國政府に我が方主張明記の覺書を手交する旨  
インド政府当局へ通知について

シムラ 8月1日後發  
本省 8月2日前着

第六七號

貴電第二三號ニ關シ

外務、商務、財務三長官及關稅調査會長へ通知シ置ケルカ右ニ付外務長官ノ了解ヲ取附ケ置クコト適當ト認メ一日同長官ヲ往訪、特惠問題ニ關スル從來ノ経緯及今回ノ附加稅問題ニ關シ本官及日本商社代表ノ採レル措置等ヲモ説明シ御電訓ノ次第並ニ之ヲ關係當局へ傳達アリタキ旨ノ書面ヲ手交セルニ長官ハ外務部ヨリモ直ニ關係當局へ回附スヘク當局ニテハ英國外務省ノ意見ヲ問合スコトト爲ルヘシ又當局ノ關稅調査會宛諮問事項中ニハ最惠國約款ニ反スルモノ

アルカ如キモ當局トシテハ之ニ氣附カサルニ非サルヘク唯  
印度商業團體ノ請願セル事項ニ屬スルヲ以テ之ヲ諮問ノ一  
項ト爲セルモノト考フル旨述ヘタリ  
英、孟買、「カルカタ」へ轉電セリ

355 昭和7年8月2日 在英国松平大使より  
内田外務大臣宛(電報)

インドにおける非英国製綿製品への関税増徴  
問題に関する我が方主張覚書きを英国外務次  
官補に手交について

ロンドン 8月2日後発  
本省 8月3日前着

第一八九號  
(二八九)  
(八四)  
貴電第一八四號ニ關シ

二日齋藤ヲシテ「マウンジー」外務次官補ヲ往訪シ貴電第  
八七號ノ趣旨ヲ覺書ニ認メタルヲ手交ノ上酒匂總領事ノ措  
置振等ニ付説明シ尙本件ハ帝國政府ノ重キヲ置ク處ナル旨  
ヲ述ヘシメタル處「マ」ハ日本政府ノ本件ヲ重要視セラル  
ルハ尤モニ付關係官廳ト熟議シ英國政府トシテ充分慎重ノ

357 昭和7年8月13日 在英国松平大使より  
内田外務大臣宛(電報)

インドにおける非英国製綿製品への関税増徴  
問題についてはインド当局との直接交渉が有  
効の旨意見具申

ロンドン 8月13日後発  
本省 8月14日前着

第三〇三號  
貴電第八四號及往電第二八九號ニ關シ

其後當業者ヨリモ直接陳情ノ次第モアル所本件ニ付テハ(一)  
條約論トシテハ我方ノ抗議ニ拘ラス已ニ英國政府ニ於テ其  
解釋論ヲ申越シ居リ(一昨年往電第二七三號客年七月十日  
附往信第三〇八號等御參照)結局其ノ決定ハ國際司法裁判  
所ノ裁決ニ待ツ等ノ方法ニ依ルニ非レハ結局水掛論ニ終ル  
ノ外ナク又(二)英本國政府ノ印度政府ニ對スル立場ハ屢次申  
進ノ通印度統治法等トノ關係モアリ其内政特ニ財政問題ニ  
付テハ英本國政府ニ於テ殆ント干涉ノ餘地ナシトノ態度ヲ  
持シ居レルヲ以テ(昭和五年往電第五七號等御參照)此ノ  
上交渉ヲ重ナルモ徒爾ニ終ルノ惧多ク此際ノ御措置トシテ

考慮ヲ加フ可キ旨答ヘタル趣ナリ  
「シムラ」へ轉電セリ

356 昭和7年8月4日 在ボンベイ栗原領事より  
内田外務大臣宛(電報)

非英国製綿製品への関税増徴問題に関する関  
税調査会報告書商務長官へ発送について

ボンベイ 8月4日後発  
本省 8月5日前着

第四七號

往電第四三號ニ關シ

關稅調查會ニテハ三日商務長官宛報告書ヲ發送シタリ内容  
ハ市場動搖ノ虞アル理由ヲ以テ嚴秘ニ附サレ居リ稅率並ニ  
期間ニ關シ豫測シ能ハサルモ「バザー」方面ニ於テハ政府  
ハ右報告書ニ基キ本國政府トモ協議ノ上緊急措置ヲ執ルヤ  
ニ觀測シ居ル向多シ

「シムラ」甲谷陀、蘭貢へ轉電セリ

ハ英本國政府ニ對シ從來ノ我方ノ主張ヲ固持シ行ク必要ア  
ルハ勿論ニシテ當方此ノ趣旨ニ於テ交渉ハ繼續スヘキモ主  
トシテ印度當局トノ直接交渉及在印度當業者ノ側面的運動  
ニ依リ解決ノ途ヲ發見スルノ方法ニ出テラルルコト有效ノ  
策ナルヘシト思考セラル御參考迄ニ卑見申進ス  
「シムラ」ニ轉電セリ

358 昭和7年8月15日 内田外務大臣より  
在カルカタ酒匂總領事宛(電報)

非英国製綿製品への関税増徴問題に関する関  
税調査会の審議結果等につき報告方訓令

本省 8月15日後5時20分発

第二八號

貴電第六七號ニ關シ

其ノ後關稅調查會ノ報告ハ印度政府ニ提出セラレタリトカ  
或ハ右報告ニ依レハ約二割ノ關稅増徴ヲ免レザルベシ等ノ  
報道傳ハル爲メ關係業者ニ於テハ一方ナラズ憂慮シ居ルニ  
付本件審議其ノ後ノ成行電報アリ度シ

カルカタ、孟買ニ轉電アレ

359

昭和7年8月15日 在カルカタ酒匂総領事より  
内田外務大臣宛(電報)

非英国製綿製品への関税増徴問題に対するインド側の動向について

シムラ 8月15日後発

本省 8月16日前着

第七〇號

往電第六七號ニ關シ

一、一有力要人ハ本官ニ對シ政府ニテハ憲法改正問題ニ付從來常ニ政府ニ加擔セル自由聯盟スラ非協力ヲ聲明スルニ至レル此ノ際全國内有力商工團體ヨリ本件ニ付猛運動アリ右カ一部ノ者ノ策動ニ依ルニセヨ其請願ヲ輕視スルハ政治的ニ不得策ナルコト及理由ノ如何ヲ問ハス安値日本品カ國內ノ或産業ニ脅威ヲ與ヘツツアルハ現實ノ事實ナルコトニ鑑ミ増税ノ必要ヲ認メ居ルモ此ノ際約四十年前ノ關稅法ノ如キヲ援用シテ英國品以外ノ綿布ニ對シテノミ増税スルコトハ對英特惠並財政自主權ノ關係上反英感情ヲ昂メ政府攻撃ノ口實ヲ與フル虞モアリ又増税ノ率及適用品目並其形式ノ決定ニハ考慮スヘキ幾多ノ事情存

孟買紡績カ日本ノ不當廉賣ニ付請願セル趣ノ處右ハ數字の根據ヲ擧ケ居ル次第ナルヤ云々トノ質問ヲ爲ス等ニテ既ニ日程中ニ掲ケラレタリ

英、「カルカタ」、孟買、蘭貢へ轉電セリ

360

昭和7年8月16日 在カルカタ酒匂総領事より  
内田外務大臣宛(電報)

非英国製綿製品への関税増徴問題を審議した関税調査会の報告内容に対する各種観測について

シムラ 8月16日後発

本省 8月17日前着

第七一號

貴電第二八號ニ關シ

一、關稅調査會ノ報告ハ孟買領事發閣下宛電報第四七號ノ通り本月三日政府へ發送セラレタルカ同會カ速ニ答申セル爲市場方面ニテハ種々ノ噂ヲ傳ヘ居ルモ本件成行ハ往電第七〇號ノ一ノ通りナリ或ル要人ハ政府ハ爲替ノ低落セル諸國ヨリノ一般輸入品ニ對スル附加税ヲ増徴スル事トシ金貨ニ對スル留比ノ下落セル割合ト當該國ノ通

スル爲未タ具體的ニ決定スルニ至ラサル趣ヲ内話(脱?)ノ「シムラ」議會モ間近ノコト故本件ハ多分同議會ノ問題トナルモノト觀測スル旨述ヘタリ

商務長官ハ本官ニ對シ政府カ何等カノ決定ヲ爲スニ至ラハ早速通知スヘシトノ私信ヲ寄せ居リ又十二日ノA、Pハ政府ニテハ本件ノ事態複雑ノ爲決定ニ手間取り居ルモ二週間以内ニハ何等カノ發表ヲ爲ス筈ナリト報道シ居ルニ徴シ政府ハ本件取扱ニ苦心シ居ルモノノ如シ

從テ未タ豫斷ヲ許ササルモ孟買、甲谷陀「バザー」方面ニテ頻リニ傳ヘラルル綿布關稅ヲ五割トスル緊急措置近日實施說ノ如キハ孟買紡績筋ノ宣傳ニ出ツルモノト認ムル外無シ唯關稅調査會カ十月ノ豫定ヲ早メ本月末ヨリ内地工場視察ヲ爲スコトナレル事情アリ或ハ政府ハ本件ヲ保護稅改訂問題トシテ取扱ハントスルニアラスヤトモ推測セラル

二、當方トシテハ經濟協會ヲ中心トシ此ノ上トモ各地棉花耕作者及消費者團體ヨリ各政黨首領ノ諒解ヲ求メシムルコトニ努力中ナリ

三、九月五日開會ノ議會ニ於テ目下當地滯在中ノ一議員ハ

貨カ金貨ニ對シ下落セルトノ差額ヲ以テ増徴率算出ノ基礎トセル法案ヲ議會ニ提出スルニ至ルヘシト觀測シ居レルカ本官ハ右觀測力的中スルニ非サヤト惧レ居レリ

二、印度カ綿布關稅ヲ増徴セハ日本ハ報復トシテ印度棉ヲ

「ボイコット」スルヤモ計ラレス又日本ハ英國ニ嚴重抗議セリトノ趣旨ノ十三日大阪發路透電報ハ當國各新聞目抜ノ紙面ニ掲載セラレタリ未タ論評ヲ掲クルモノ無キモ「モデイラ」ハ之ヲ一片ノ「ブラフ」ニ過キスト「インタービュー」ヲ新聞ニ與ヘ孟買及「アーメダバット」紡績聯合會其ノ他商業團體ヨリハ更ニ政府ニ對シ一刻モ早く日本品防遏措置實施方電請セリ又或ル新聞ハ印度棉ノ「ボイコット」說カ單ナル「ブラフ」ニ過キストスルモ日本ノ抗議ハ政府ノ決定ヲ一層遲延セシム可シトノ記事ヲ掲ケタリ

英、甲谷陀、孟買、蘭貢ニ轉電セリ

361

昭和7年8月30日 在カルカタ酒匂総領事より  
内田外務大臣宛(電報)

非英国製綿布への関税を一九三三年三月末まで五

割に引上げるとのインド政府の告示発表について

シムラ 8月30日後発  
本省 8月31日前着

第八六號

- (1) 一、印度政府ハ三十日告示ヲ以テ一八九四年ノ「インディアン、タリフ、アクト」ノ規定ニ依リ
- 甲、無地ノ生地綿布ニシテ英國製以外ノモノノ關稅ヲ從價五割或ハ一封度五安四分ノ一何レカ高キニ依リ（現行二割或ハ一封度三安半）
- 乙、其他ノ綿布ニシテ英國製以外ノモノノ關稅ヲ五割（現行二割）トシ其ノ實施期限ヲ一九三三年三月三十一日迄トスヘキ旨發表セリ
- (2) 二、右ニ關シ政府ハ長文ノ發表ヲ爲セルカ其要點左ノ如シ
- (一)關稅調査會ハ圓貨下落ニ鑑ミ印度綿工業保護ノ爲附加稅賦課ヲ必要ト認メ初メ本年六月ノ平均爲替率タル百圓對百六ヲ計算ノ基礎トシ英國品以外ノ綿製品ノ關稅ヲ五割三分トスヘキコト並ニ稅率ニ付「スライディング、スケール、システム」採用ノ望マシキコトヲ勸奨セルモ右ハ政府ニ於テ採用困難ト認メタル爲同會ハ再審議ノ結果

右率ヲ五割トシ三十三年三月三十一日迄實施セラル可キコトヲ勸奨セリ

(二)同會ハ日印通商條約ノ關係上右關稅ハ英國品以外ノ凡テノ輸入綿布ニ賦課スヘシト爲セリ

(三)同會ハ從量稅ニ付勸奨セサリシモ政府ハ其最低限ヲ一封度五安四分ノ一トスヘキニ決セリ

(四)右增稅ハ直ニ實施シ三十三年三月三十一日迄有效ナル可ク三十一年ノ財政法ニ依ル附加稅（即一割一分四分ノ一）ハ賦課セス（從ツテ現行率ニ比シ一割八分四分ノ三ノ増率ナリ）

(五)政府カ斯卡ル措置ヲ採リタルハ純然タル一時的增稅ノ必要ヲ認メタルニ依ルモノニシテ目下調査會ニテ審議中ノ印度綿工業カ果シテ保護稅ヲ受ク可キ條件ヲ充シ居ルヤ否ヤノ問題トハ全然關係無キコトヲ聲明ス

英、「カルカタ」、孟買、蘭貢ヘ轉電セリ

編注 八月三十一日發在カルカタ酒勾總領事より内田外務

大臣宛電報第八八号（第322文書）において、「六月」は「七月」の誤りである旨訂正されている。

362 昭和7年8月31日

在カルカタ酒勾總領事より  
内田外務大臣宛（電報）

非英國製綿布への關稅五割課稅決定に至るインド側事情について

シムラ 8月31日後発  
本省 9月1日前着

第八八號

往電第八六號ニ關シ

終ニ綿布ノミニ對シ増（稅）ヲ見タルカ往電第八〇號前段ノ内報ヲ齎セル政府部内ノ者等ノ言ヲ綜合スルニ政府ハ圓ノ下落最近甚タシキ爲一般日本品ニ對シテモ等シク増稅方計畫シ居ルモノノ如キ處政治的事情即チ憲法改正ニ關スル印度事務大臣六月ノ聲明ヲ不滿トシ曩ニ自由聯盟ハ政府ニ非協力ヲ表明シ更ニ十七日英政府ノ發表セル「コンブユナル、アワード」ハ各殊ニ「ヒンズー」及「シーク」族ノ反感ヲ激發シ憲法改正問題ニ一頓挫ヲ來タセルト共ニ「オタワ」取極ノ關係モ有リ政府ハ少クトモ此際自由聯盟派ノ意ヲ迎フル必要ニ迫ラレ廿八日總督ハ同派ノ大立者タル「サブール」ヲ招致シテ懇談シ又之ト前後シ商務並ニ財務

兩長官ハ態々孟買ニ出張シタル程ニテ孟買紡績關係者ノ多クカ同派ニ屬スル關係ヲ思ヘハ今回ノ決定ニ至レル事情ヲ窺知シ得可シ從テ圓價ノ回復セサル限り「シムラ」議會ニ（イ）爲替低落國ヨリノ一般輸入品ニ對スル附加稅案ノ外（ロ）綿布關稅ノ五割ハ往電第八六號ノ二ノ一ノ如ク（六月トアルハ七月ノ誤リ）大體百六留比ヲ計算ノ基礎トセルモノナルニ鑑ミ紡績關係議員ヨリ更ニ附加稅增徵案ノ提出ヲ見ルヤモ計リ難キニ付テハ我立場ヲ有利ナラシムヘキ資料有ラハ隨時電報アリ度シ

英、「カルカタ」、孟買、蘭貢ヘ轉電セリ

363 昭和7年9月3日

在英國松平大使より  
内田外務大臣宛（電報）

非英國製綿布への關稅增徵問題に關する我が方覺書に對しての英國政府回答について

ロンドン 9月3日後發  
本省 9月4日前着

第三一七號

往電第二八九號我方覺書ニ對シ當國外務省ハ九月二日附公

文ヲ以テ我方抗議ノ諸點ニ慎重ナル考慮ヲ加ヘタルモ英本  
國政府及印度政府共客年七月九日附英國外務省公文(客年  
七月十日附拙信機密第三〇八號所報)及其ノ他ノ公文文中ニ  
開示セル見解即チ英帝國內ノ他ノ部分ヨリ印度ニ輸入セラ  
ルル貨物ニ對シ特惠的取扱ヲ與フルコトハ一九〇四年ノ日  
印協定ニ牴觸スルモノニ非ストノ見解ヨリ離ルルコト能ハ  
ス印度政府ハ右協定ノ義務ニ反スルカ如キ措置ヲ採ルコト  
無カルヘシトノ趣旨ヲ回答シ來レリ原文郵送ス  
「シムラ」「カルカッタ」、孟買、蘭貢へ轉電セリ

364

昭和7年9月3日

在カルカタ酒勾總領事より  
内田外務大臣宛(電報)

非英國製綿布への関税五割課税実施が日本製  
綿布取引に及ぼす影響について

シムラ 9月3日後発  
本省 9月4日前着

第九三號

往電第八六號ノ増(税)ニ關シ「カルカッタ」市場日本綿  
布ハ商内見送ノ狀況ナルカ(一)新稅ハ高率ナルモ最近綿製品

統制ニ於テ改善ヲ試ムルコトハ更ニ近ク保護關稅改訂問題  
ノ決定セラルヘキトキニ際シ最モ望マシキ點ナリ(五)尙本稅  
ノ實施ニ伴ヒ近來甚シク安値ヲ以テ輸入増加ヲ示セル他ノ  
本邦輸入品ニ對シテモ増稅スヘシトノ論漸次勢ヲ得來レル  
ヲ以テ印度市場ノ重要性ニ鑑ミ他商品取扱業者ニ於テモ此  
ノ際一層取引上ノ統制ヲ緊密ニシ市場維持上充分戒心スル  
コト必要ナリ  
孟買、蘭貢へ轉電セリ

365

昭和7年9月6日

内田外務大臣より  
在英國松平大使宛(電報)

インド政府による非英國製綿布への関税増徴  
措置の速やかな撤廃につき英國政府へ申入れ  
方訓令

別電 九月六日発内田外務大臣より在英國松平大使  
宛第一一三號  
右申入れ文

本省 9月6日後9時 分發

第一一二號

相場ハ上騰シ居ルヲ以テ之ヲ負擔スヘキ印度商人側モ期待  
セル儲ノ一部ヲ吐出スノミニテ實際損失ヲ蒙ルニ至ラサル  
ヘク從テ之カ爲ノ受渡上ノ紛爭ヲ惹起スルカ如キコトナカ  
ルヘシ(二)目下ノ印度ハ金塊輸出ノ繼續米國ノ好況ニ基ク  
「ジユート」棉花市場ノ活況等大体ニ人氣好轉シ居ルノミ  
ナラス右實施ニ依リ本邦品市場ハ目先取引上ノ不安分子ヲ  
除去セラレタルコトナリ近年外貨抵制ニテ奧地在荷モ多  
カラス十月「ブージャ」祭ニ近ク四周ノ狀況ニシテ好轉ヲ  
續クルナラハ値頃ニ依リ取引復活ヲ期待シ得ヘシ(三)尤モ新  
稅ニ依ル日本品一割八分七厘五毛ノ増徴ニ對シ今後何程市  
場價格カ鞏寄セ來ルヘキヤカ問題ニシテ其一部ハ本邦側カ  
爲替ノ低落ニ依リテ償ヒ得ルカ又ハ生産費ノ引下ニ依リテ  
負擔セサルヘカラサルコトナルヘク且日本品ニ比シ稅率  
二割五分方割安トナレル英國品モ假令反英氣分ニ依ル抵制  
アリトスルモ品ニ依リ輸入増加ヲ期待セラレ居ルヲ以テ本  
邦品ノ市場維持ニハ此ノ際相當確平タル方策ヲ緊要トスヘ  
シ(四)頃來ノ爲替關稅問題擡頭ニ當リ本邦側カ安値賣込ヲ差  
控ヘタル如キ一致ノ行動ハ大局ヨリ見テ機宜ノ措置ニシテ  
今後一層當業者ノ協力ヲ緊密ニシ生産費ノ切下及取引上ノ

貴電第三一七號及「シムラ」発大臣宛電報第八六號ニ關シ  
今次ノ印度綿布関税引上ニ於テハ我方警告ノ趣旨ヲ加味シ  
本邦品ノミニ對スル関税引上ハ之ヲ避ケオルモ我國ノ最モ  
重要視スル特惠關稅ノ開キハ從來ニ比シ一層擴大シタル次  
第二ニテ差當リ爲替安ノ為對印輸出ニ大ナル支障ハナカルベ  
シトスルモ原綿既ニ著シク騰貴シ其ノ他ノ生産費亦漸増ノ  
傾向ニ在ル今日斯ノ如キ差別的高率関稅ガ持續セラル、ニ  
於テハ我對印貿易ハ遠カラズ致命的の打撃ヲ受クルニ至ル虞  
アリ

然ルニ其ノ後印度ニ於テハ之ヲ以テ微温的ナリトシ更ニ増  
稅ノ計畫モアルヤニテ「シムラ」發本大臣宛電報第八八  
號)對支貿易不振ノ今日ニモアリ本件ハ我國産業界ノ重要  
事トシテ著シク世人ノ注意ヲ喚起シオリ既ニ議會ニテモ問  
題トナリオル様ノ次第ナリ  
就テハ發令後ノ今日新関稅ノ實施ヲ阻止スルコトハ不可能  
ナルベキモ來年三月以後ハ是非共本令ノ廃止ヲ見ルコト、  
致度且兼ねテ目下印度関稅調査會ニテ審議中ノ綿業保護関  
稅問題ニモ備ヘ置クコト緊要ト認メラル、ニ付貴官ハ至急  
文書ヲ以テ重テ別電第一一三號ノ趣旨ヲ英國政府ニ申入レ

ラレ且口頭ヲ以テ我方申入レノ主眼トスル所ハ遅クモ明年三月以後ハ其ノ形式如何ヲ問ハズ此種高率ナル差別的関税ノ廃止ヲ期スルニ在ル旨附言シオカレ度シ

「シムラ」孟買ニ轉電セリ

## (別電)

本省 9月6日後9時 分發

## 第一一三號

一、今次ノ印度関税改正ニ依リ英国品以外ノ綿布ニ從價五割ヲ課シタルハ円價下落ヲ理由トスルモノト認メラル、處「シムラ」發本大臣宛電報第八六号)円價下落ノ結果一時的ニ我綿製品ノ輸出ヲ促進シタルハ事實ナルモ他方我綿業ハ原料棉花ヲ凡テ印度及米国等ニ求メ居ル為円價ノ恢復ヲ見ザル限り原棉ハ割高トナルコトヲ看過スベカラズ尚為替関係ヲ別トスルモ八月上旬以來印棉米棉共ニ暴騰ヲ續ケ為ニ尔後二旬ノ間ニ本邦市價前者ハ七割弱後者ハ八割弱騰貴シ我綿業者ハ非常ナル苦境ニ陥リツ、アリ向後ノ趨勢トシテモ棉花ハ客年十月ニ於ケルガ如キ安値(現在ノ約三分ノ一ニ當ル)ノ再来ハ到底想像シ得

三、高率関税ヲ以テ我綿布ノ対印輸入ヲ阻止スル結果ハ當然原料タル印棉ノ輸入ヲ減少セシムベク今次ノ改正ハ印度紡績業者ノ為ニ棉花栽培業者ノ利益ヲ無視セル嫌ナキニ非ズ我國ハ毎年印度ヨリ一億円以上ノ棉花ヲ輸入スル莫ニ於テ印度最大ノ顧客ナル關係上我國内一部ニ於テハ今次ノ関税引上ノ対抗措置トシテ印綿輸入ノ阻止ヲ計ラムトスルガ如キ議論スラ生スルニ至レルモ亦故ナキニ非ズ

四、日印條約ノ解釋ニ関スル客年七月ノ英国政府ノ「ノート」ハ foreignノ意義ヲ當初ヨリ自明ノモノトシテ説明シオルガ如ク單ニ英国ト諸外国トノ通商條約ガ何レモ特惠ヲ前提トシオリ日印條約ニ於テモ右ノ趣旨ニ基キ特ニ foreignナル文字ヲ加ヘタルモノナリト云フニ止リ別段首肯スベキ莫ナキヲ遺憾トス

他方右「ノート」記載ノ如ク日本ト諸外国トノ條約中 any other foreign country ト any other country トヲ等シク「別国」ト譯シオルトスルモ之ガ為直ニ独立ノ正文タル日印條約ノ日本文中ノ「別国」ノ意義ヲ英文「テキスト」ニ依リ定ムベシトノ結論ヲ生ズルモノニ非ズ蓋シ

ラレズ他面本邦ニ於ケル製造工費ハ物價騰貴ニ連レ漸騰ノ傾向ニ在レバ今後ニ於ケル輸出綿布市價ノ騰貴ハ何人ト虽モ疑フノ余地ナキ所ニシテ若シ右ニ拘ラズ今次ノ高率関税ガ假令短期間ナリトモ持續セラル、ニ於テハ本邦綿布ノ対印輸出ハ理由ナキ高率関税ノ為致命的打撃ヲ蒙ルコト、ナルベシ尚印度関税定率法中從價五割ノ課税アルハ銃砲、火薬、樟腦等極メテ少数品目以外ハ全然贅澤品ニ属スルモノニシテ綿布ノ如キ印度大衆ノ生活必需品ニ対シスル高率ヲ課シ外国綿布ノ輸入ヲ阻止スルコトノ妥當ナラザルハ茲ニ贅言ヲ要セズ

二、今次ノ改正ニ於テ日本品ノミヲ指摘シテ増税スルノ形式ヲ避ケラレタル事實ハ之ヲ諒トスルモ我方ノ最も関心ヲ有スルハ右改正ニ際シ英国綿布ニハ依然從價二割五分ヲ据置キ英国品以外ニ対シテハ從價三割一分二厘五毛ヨリ從價五割ニ引上ゲ日英間ノ綿布関税ニ從價二割五分ノ開キヲ生ゼシメ其ノ結果日本綿布ハ英国品ニ比シ二倍ノ課税ニ服スルニ至レルコトニシテ本問題ニ関スル日英間屢次ノ交渉ニ拘ラズ單ナル行政命令ニ依リ斯ノ如キ特惠率ノ拡大ヲ見タルハ我方ノ最も遺憾トスル所ナリ

第一條ノ「別国」ガ同條ノ「日本国」及「印度国」ニ対スル別国ニシテ從テ其ノ英本国ヲ除外スルモノニ非ルコトハ全条日本文ノ構成上何等疑問ノ余地ナケレバナリ(同條約ガ他ノ英帝国構成分子ノ加入ヲ豫想シオラザルコトハ右ノ解釈ヲ一層正當ナラシムルモノト云フベシ)而シテ既ニ英国政府ノ認メタルガ如ク foreignノ意義ヲ政治的服從關係ニ依ラズ地理的標準ニ依リテ定ムルコトモ可能ナリトセバ(右ニ関シ曩ニ我方ガ英澳條約ヲ引用シタルハ同條約ニ依リ埃国ガ特惠ニ均霑シ得ルコトヲ主張センガ為ニ非ズ)本條約英文ノ解釋トシテハ前記日本文解釋ノ結果ト合致スル地理的標準ニ依ルコトヲ最も妥當トスベシ蓋シ條約締結ノ際ニ於ケル當事国ノ一方ノ意嚮(intention)ハ條約正文自体ノ現ハス意義ヨリモ強シト云フコトヲ得ザレバナリ況ヤ右 intentionナルモノガ(前記「ノート」四末段参照)一九〇三年八月十二日ノ英国公使館覚書ノ趣旨ニ関スル英国政府ノ説明ト著シク背致スルモノナルニ於テヤ旁々我方ハ本條約ノ解釋ニ関スル從來ノ立場ヲ變更スルコトヲ得ズ

五、前記ノ事情ナルニ依リ帝國政府ハ英国政府ガ日印間相

互貿易ノ大局ニ鑑ミ一日モ速ニ本件課税告示ノ撤廃ヲ見  
ンガ為深甚ノ考慮ヲ拂ハレンコトヲ切望ス  
「シムラ」、孟買ヘ轉電セリ

366 昭和7年9月12日 在カルカタ酒勾總領事より  
内田外務大臣宛(電報)

非英国製綿布への関税増徴問題に関する関税  
調査会の報告発表について

シムラ 9月12日後発  
本省 9月12日後着

第一〇八號  
往電第八六號ニ關シ

本件ニ關スル調査會報告發表セラレタルカ右ニ依レハ三十  
年ノ二割保護税ノ當否ハ論外トシ本邦綿布ノ値下リカ三十  
年三月ニ比シ平均三割強ニシテ圓價約百六留比見當トセハ  
約五割三分ノ課税ヲ爲ササレハ前記二割ニ相當スル保護ノ  
目的ヲ達セサルヘシト爲シ左ノ事實ハ日本品安値ノ脅威ヲ  
是認セシムト説ケリ

甲、甲谷陀税關ノ調査ニ依レハ日本品ノ印度市場ニ於ケル

非英国製綿布への関税増徴に対する我が方今  
後の対策について

シムラ 9月12日後発  
本省 9月13日前着

第一〇六號  
往電第九三號ニ關シ

今回ノ増税ハ從價税ニアリテハ税額算出方法ノ關係上舊税  
ニ比シ甲谷陀側ハ九分三厘三毛ノ引上トナリ圓爲替カ著シ  
ク回復セサル限り採算ノ餘地ヲ存スル趣ナリ、又英國品ハ  
名目上二割五分ノ特惠ヲ受クルモ實質ハ一割三分三厘(増  
税前ハ三分八厘三毛)ニシテ日本品ニ對スル關係ニ於テハ  
綿布市價ニ付原綿ト工費ノ割合ヲ六對四トセハ圓爲替カ百  
四留比迄回復スルニ至リテ始メテ増税前ト等シク三分八厘  
三毛ノ特惠ヲ受クル事トナル譯ナリ

(二)右ノ如キ事情ナル爲印度人間ニハ往電第九七號等ノ如ク  
今回ノ増税ヲ以テ尙不充分ト爲ス聲高ク又在印本邦商社側  
ニテハ圓低落ノ事實ニ顧ミ増税カ今回ノ程度ニ止マレルヲ  
不幸中ノ幸トシ寧ロ此ノ際我方ニテ印度側ヲ刺戟スル惧ア  
ルカ如キ行動ヲ執ラサル方得策ナル可シト爲スモノ多キ實

留比値段ハ六月現物ト八月積出物ヲ比較スルニ最低四分  
二厘七毛最高一割三分五厘平均九分四厘八毛方先安ヲ示シ  
甲谷陀ニ於ケル日本品輸入商 Shirwell Niro's ハ最高三割  
六分八厘 Bombay Co. 一割八分八厘 Steiner Ltd. 二割二  
分二厘ノ先安數字ヲ提供セリ  
(2)六月中ノ圓爲替平均百十五ニ比シ七月末百六ハ七分乃至八  
分ノ低落ニシテ前記税關ノ數字ニ依ルモ明カニ爲替低落率  
全部カ先物相場ニ反映スルモノト看做シ得ルコト  
乙、普通漠然ト唱ヘラルル「ダンピング」ノ中ニテモ國內  
産業ニ最モ惡影響ヲ及ホスモノハ「スボラディック、ダン  
ピング」ナリ但シ玆ニ言フ「ダンピング」トハ輸入地ノ貨  
幣ヲ以テ表ハサルル法外ノ安値ヲ意味シ輸出國ニ於ケル相  
場カ生産費以下或ハ國內相場ヨリ安値ナルヲ意味スルモノ  
ニ非ス即チ玆ニ示セル日本品ノ相場ハ明カニ「スボラディ  
ック、ダンピング」ノ類ナルコト  
在英大使、孟買、蘭貢ヘ郵送セリ

367 昭和7年9月12日 在カルカタ酒勾總領事より  
内田外務大臣宛(電報)

情ナリ

(三)保護關稅問題ノ關係及圓爲替回復ノ場合並ニ從來我方ノ  
爲セル陳情等ノ關係ヲ考フレハ此ノ際本邦關係者ヨリ當局  
ニ對シ今回ノ増税ハ日本綿布ノ輸入ヲ至難ナラシメ其ノ輸  
入減ハ必然印度棉ノ日本向ケ輸出減トナリ双方ニ不利ヲ齎  
ス可キヲ遺憾トス當局カ日印通商ノ爲近ク斯ル高率關稅引  
下ノ措置ニ出テラルル事ヲ要望ストノ趣旨ヲ申入レ置ク方  
適當ト存ス又往電第一〇八號關稅調查會ノ所見ニ顧レハ今  
後日本側カ安値賣込ヲ競フニ於テハ保護稅問題ヲ益々我方  
ノ不利ニ導ク惧アリト認メラルルニ付各關係商社ニ於テ自  
制シ統制ヲ期スル事肝要ト存ス

(四)當方ニテハ本邦品取扱商並消費者及棉花耕作者團體ヲ  
シテ本件重税反駁ノ陳情ヲ爲サシメ其聲ヲ大ナラシムルコ  
トニ引續キ努力中ナリ又「サー、ハリシング、グール」ハ  
最近政府高官ヨリ本件ニ關スル意見ヲ尋ネラレタルニ對シ  
須ク日本ト或程度ノ通商取極ヲ爲シ斯カル不快事ヲ避クル  
コト適當ト考フル旨答ヘタル趣ニテ當時同氏ハ圓カ百留比  
以下ニ迄下落セサリシナランニハ政府トシテハ本件措置ヲ  
執ラサリシナラントノ印象ヲ得タル由ナリ尙同氏ハ今後圓

爲替ノ成行ニ依リ本件行政命令ノ制止又ハ改正ノ動議ヲ爲スヘキヲ明言シ居リ他ノ有力議員ヨリモ同様ノ了解ヲ得居レリ  
在英大使、孟買、蘭貢ニ轉電セリ

368 昭和7年9月17日 在英国松平大使より  
内田外務大臣宛(電報)

インド政府による非英国製綿布への関税増徴  
措置の速やかな撤廃を求めた我が方覚書英国  
外務次官補へ手交について

ロンドン 9月17日後発  
本省 9月17日後着

第二三一號

貴電第一一二號ニ關シ

本十六日「マウンゼイ」次官補ニ會見シ御訓令ノ次第ヲ覺書トシテ認メタルモノヲ手交ノ上之ヲ敷衍説明シ成可ク速カナル機會ニ本件告示ノ撤廢ヲ希望スルモ已ムヲ得サレハ來年三月以後ニハ是非トモ廢止セラルル様取計ヒアリ度キ旨ヲ力説シタルニ「マ」ハ當方申出ノ次第ハ篤ト考量研究

第一一五號

<sup>(1)</sup> 孟買紡績聯合會カ日印通商條約廢棄方政府へ陳情セル旨電報セルカ新聞報ニ依レハ孟買英人商業會議所其他ノ商工業團體モ同様ノ陳情ヲ爲ス旨ニテ其要旨ハ印度ハ國內産業保護ノ爲他國ノ採レル例ノ如ク不當廉賣防止法制定ノ必要ニ迫ラレ居レリ此際少クトモ

一、政府ハ事前ニ立法會議ノ承認ヲ經スシテ緊急措置ヲ取り得ルコト

二、産業保護ニ關スル措置中ニハ必要ノ場合自動的ニ附加稅ヲ増徴シ得ルノ條項ヲ包含セシムルコト

<sup>(2)</sup> 三、行政的權限ヲ廣クシ外國品カ異常ナル安價ニテ輸入セラルル場合ニハ其ノ理由ノ如何ヲ問ハス直ニ増稅ノ措置ヲ講スルヲ得セシムルコト

ノ三點ヲ包含スル立法ヲ要望ス之カ爲日印通商條約カ政府ノ解釋スル如ク障害ヲ與フルモノトセハ之ヲ廢棄又ハ變更シテ日本品「ダンピング」ニ對スル必要措置ヲ可能ナラシメンコトヲ要望スト云フニアリ

尙孟買紡績陳情ニハ英國カ金本位停止後之ト最惠國約款ヲ有スル諸國ハ英國品ニ附加稅増徴方躊躇シ居ラス右ハ注意

スヘシト述ヘ居リタリ右ノ次第ナルカ故ニ往電第三〇一號申進メノ通り條約ノ解釋ニ付目下ノ處水掛論トナリ居リ稅ニ對スル英國政府ノ對印度政府關係モ再三申進ノ通りナルノミナラス英國政府トシテハ「マンチエスター」紡績業トノ關係モアリ自國ノ紡(績)ト密接ノ利害關係ヲ有スル爲寧ロ増稅ヲ歡迎スルノ立場ニアリ旁々今後爲替相場ノ回復スルカ又ハ印度棉花栽培業者ノ運動效ヲ奏スルカ將又我方ニ於テ仲裁裁判等ニ依リ條約論ノ解決ヲ圖ルカ或ハ報復的措置ヲ取ル等ノ方法ニ依ルニアラサレハ來年三月以後ト雖モ本件關稅ノ廢止ハ樂觀ヲ許サスト思考ス右重ネテ卑見申進ス  
シムラ、孟買へ轉電セリ

369 昭和7年9月17日 在カルカタ酒匂總領事より  
内田外務大臣宛(電報)

ボンベイ紡績連合會などによる日印通商條約  
廢棄および不当廉賣防止法制定要求について

シムラ 9月17日後発  
本省 9月18日前着

ニ値スル旨附言シ居レリ

在英大使へ轉電シ、甲谷陀、孟買、蘭貢へ郵送セリ

370 昭和7年11月14日 在ボンベイ栗原領事より  
内田外務大臣宛(電報)

関稅調査會による綿糸布保護関稅統否問題に  
関する報告書の作成について

ボンベイ 11月14日後発  
本省 11月14日後着

第六九號

當地開會中ノ關稅調査會ハ各方面ヨリノ材料蒐集後專ラ報告書ノ作製ニ腐心シ居リタルカ昨今漸ク脱稿シ各委員ノ署名ヲ了シ近ク印度政府ニ提出ノ運トナリタル模様ナルカ右ニ付同會關係者並ニ當地聯合會幹部側ヨリ得タル印象ニ依レハ同報告書ハ當初ノ腹案ヨリハ大部ノモノトナリ約四百頁ニ達シ劈頭印度紡績ノ發達ヲ歴史的ニ述ヘ最近數年來ノ不振ノ原因ヲ探究シ拙劣ナル經營並ニ外國ヨリノ競争ニ在リトシ一九二七年綿絲關稅引上後ニ於ケル數度ノ關稅引上カ印度紡績ニ及ホシタル影響ヲ敍シ現狀ニ於テハ結局稅率

繼續ノ已ムヲ得サルモノナルヲ認メ更ニ保護ノ方法ヲ論シ  
或ル綿布ニ對シ従量税ノ擴張ヲモ勸奨シタルモノナルカ現  
在ノ税率ニ比シ公平且合理的ノモノナルカ如シ  
詳細情報入手次第電報ス  
甲谷陀、蘭貢、古倫母へ暗送セリ

~~~~~

昭和7年11月15日 在英國加藤臨時代理大使より
内田外務大臣宛(電報)

非英國製綿布への関税増徴措置の速やかな撤
廃を求めた我が方覚書に対する英國外務省回
答について

付記 十一月十四日付

(編注)
右英國外務省回答公文

ロンドン 11月15日後発
本 省 11月16日前着

第三九五號

往電第三三二號我方覚書ニ對シ當國外務省ヨリ十一月十四
日附公文ヲ以テ「日本側申出ノ次第ハ篤ト考量ヲ加ヘタル
モ英、印兩國政府トモ本件印度關稅引上ハ一九〇四年ノ日

印協定ノ條項ニ何等牴觸スルモノニ非ストノ見解ヲ離ルル
能ハサルヲ遺憾トス今(回)ノ日本側覺書中ニ開陳セラレ
タル論(旨)ニ關シテハ別ニ新論點ヲ見出ス能ハス從テ右
諸點ニ對シテハ客年七月九日附公文(客年七月十日附往信
機密第三〇八號參照)ニ於テ充分回答シアリト思考スル」
旨回答アリタリ委細公信

甲谷陀、孟買へ轉電セリ

(付記)

FOREIGN OFFICE, S. W. 1.
14th November, 1932.

No. F 7923/6471/23.

Your Excellency,

With reference to my note No. F 6797/6471/23 of
4th October, I have the honour to inform Your Excellen-
cy that the memorandum you were so good as to leave
at this department on the 16th September, dealing with
the question of the recently increased customs tariffs in
India upon cotton piece goods, and with the interpreta-

tion of the Indo-Japanese Convention of 1904, has been
carefully considered.

2. The Government of India and His Majesty's Govern-
ment in the United Kingdom regret that they are unable
to depart from their view that this increase in the
customs tariff in India is in no way inconsistent with the
terms of the Indo-Japanese Convention of 1904. They
are of the opinion that no new point emerges from the
arguments put forward in your memorandum and that
these arguments are in fact fully answered in the note on
this subject which my predecessor, Mr. Henderson, had
the honour to address to you on the 9th July, 1931.

I have the honour to be, with the highest consider-

ation,

Your Excellency's obedient Servant,
(For the Secretary of State)
(Sgd) C. W. ORDE

His Excellency

Mr. Tsuneo Matsudaira, G. C. V. O.

etc., etc., etc.,

編注 本件回答公文は十一月十五日付在英國加藤臨時代理
大使より内田外務大臣宛公信機密第四〇七号(十二
月十六日接受)によリ送付された。

~~~~~